

白書の注目点②：人生100年時代には学び直しが大切

●人生100年時代を見据えた人づくり

◇我が国は、健康寿命が世界有数の長寿社会を迎えていて(右ページ図1)、若者から高齢者まで全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続ける社会を構築することが重要な課題になっています。



◇こうした人生100年時代を見据え、年齢にかかわらず学び直し(リカレント教育等)を行い、能力を高めることには、2つの大きな意義があります。一つは、これまでのような新卒で就職した企業に定年まで働くという単線的な職業キャリアではなく、学び直しによって、転職や起業を行うなどの多様なキャリア形成、「人生の再設計」が可能となることです。二つめには、第4次産業革命の技術革新が進む中で、学び直しによって、新技術に対応したスキルや、AI等の機械に代替されにくい能力を身に付けることが可能になることです。

●学び直しの効果

◇学び直しと聞くとハードルが高いように思うかもしれませんが、大学等で勉学に専念する場合はもちろん、通信教育・オンライン講座を受けることや、セミナーへの参加、書籍による独学等その方法は様々です。いずれの場合も、学び直しを行うことでその効果がみられます。

◇学び直しを行った人と行っていない人の動向を数年間にわたって追跡調査した結果を分析すると、学び直しを行った人は、そうでない人と比べて、年収が10万円~16万円近く上昇する効果がみられます(図2①)。また、職業に就いていない人が学び直しを行った場合には、そうでない人と比べて就業する確率が10%~14%程度上昇する効果がみられます(図2②)。

●今後の人材育成に向けた課題

◇学び直しは大きな効果を持ちますが、特に効果が大きい学び直しは、大学等で再教育を行うことです。しかし、残念なことに、国際比較をすると、25歳から64歳のうち教育機関で学び直し(リカレント教育)をしている人の割合は、日本では2.4%しかおらず、OECD平均の11%を大きく下回っています(図3)。

◇学び直しに向けた課題の一つには、日本では労働時間が長く学習時間が確保できないことがあります。労働時間の短縮は、学習時間の増加につながることでデータからも示されており(図4)、ワーク・ライフ・バランスを促進することが重要です。また、学び直しが適切に評価されていない企業も多いため、学び直しの成果を処遇に反映させることも重要です。

◇さらに、大学等においては、各大学の役割や特色・強みの明確化を進め、社会のニーズに対応したカリキュラム編成を工夫するなど、社会人が求めるより実践的で質の高い学びの機会を提供することが求められています。

図1 健康寿命の国際比較 (2016年)

日本は、健康寿命が世界で最も高い国の一つ

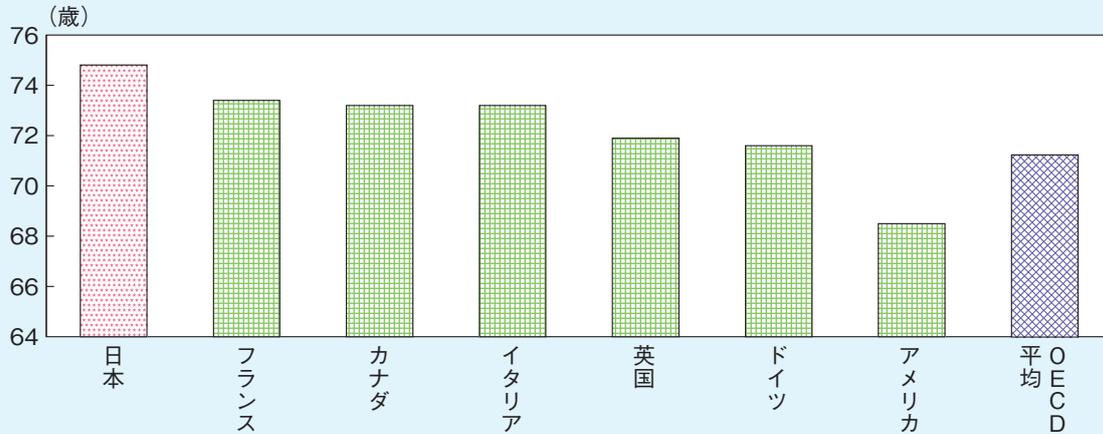
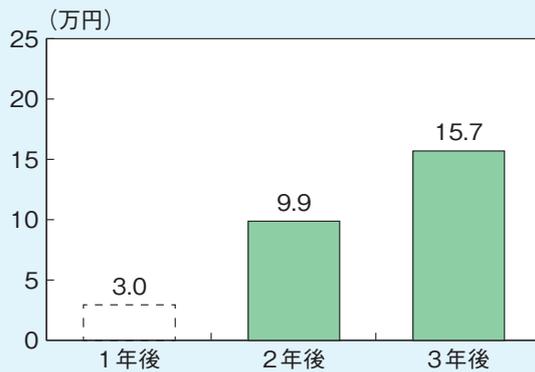


図2 自己啓発実施後の年収・就業確率の変化 (実施した人と実施しなかった人の比較)

①年収の変化
自己啓発により2年後以降年収が増加



②就業確率の変化
非就業者の就業確率が10～14%ポイント増加

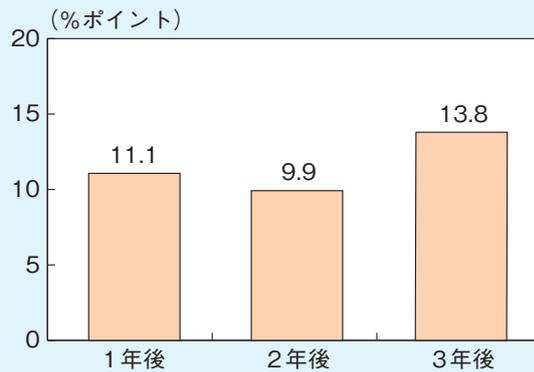


図3 教育機関での学び直しの割合 (25～64歳)

日本は大学等での学び直しが少ない

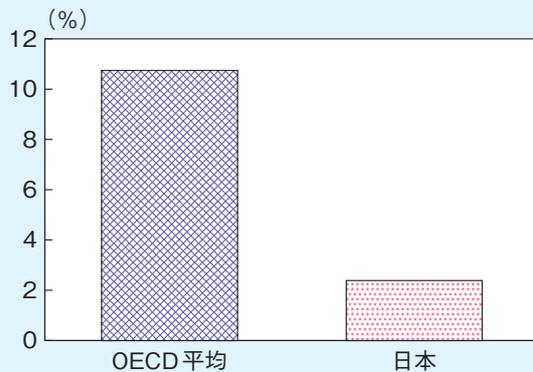
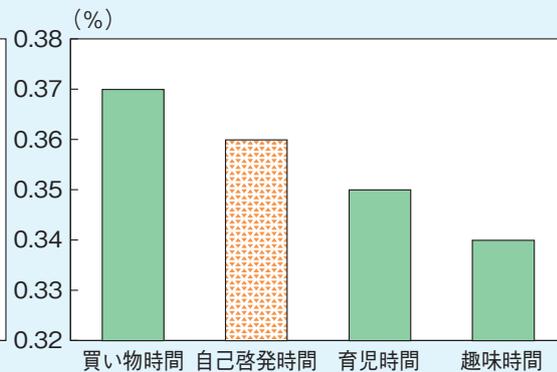


図4 労働時間が1%減少した時の生活時間に対する効果 (平日、正社員)

労働時間の減少により自己啓発等の時間が増加



(備考) 図1：World Health Organization「Healthy Life Expectancy」により作成。
 図2：第2-2-10図より作成。グラフが破線のものは、有意でないもの。
 図3：第2-2-12図より作成。
 図4：第2-3-3図より作成。